

台風シーズンに備えよう

台風

熱帯性の低気圧が発達し、中心付近の最大風速が 17.2m/秒 以上になったものを台風と呼びます。日本には 8 月末から 9 月にかけてよく上陸します。台風は、強風・大雨を伴い大きな災害をもたらすことがあり、テレビ・ラジオなどの気象情報をよく聞いて早めに対策を立て、十分な備えをしましょう。

台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s ~ 44m/s 未満
非常に強い	44m/s ~ 54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上

風の強さと影響

平均風速 10 ~ 15m/s	風に向かって歩きにくい
平均風速 15 ~ 20m/s	風に向かって歩くことができない
平均風速 20 ~ 25m/s	しっかり身体を確保しないと転倒する
平均風速 25 ~ 30m/s	立ってられない。樹木が倒れる
平均風速 30m/s 以上	屋根が飛び、木造住宅の全壊が始まる

集中豪雨

集中豪雨は限られた範囲に、短期間で集中して雨が降る現象です。集中豪雨の予測は困難で、大きな被害を生むこともあります。キャンプなどで山間部や河川にいる場合は特に気象情報に十分注意しましょう。避難勧告があった場合、または自ら危険だと判断したときには、近所の人々と一緒に避難場所へ避難しましょう。

1 時間の雨量と災害発生状況

1 時間の雨量	災害発生状況
10 ~ 20 ミリ	長く続く時は注意が必要
20 ~ 30 ミリ	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れ
30 ~ 50 ミリ	山崩れ、崖崩れが起きやすくなる
50 ~ 80 ミリ	マンホールから水が噴出。土石流が起こりやすい
80 ミリ以上	大規模な災害が発生する。嚴重な警戒が必要



事前準備

- テレビ、ラジオなどで気象情報を確認する。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。
- 断水に備えて飲料水を確保、非常食の備蓄をする。

強風対策

- 窓は雨戸を閉める。雨戸がない窓はガムテープを貼り、カーテンを引く。
 - ベランダの物干しざお、家のまわりの飛ばされやすい物は片付けるか、固定を。プロパンガスのボンベ、植木鉢などは特に注意。
 - 瓦が不安定な場合は針金などで補強する。アンテナもしっかり固定しておく。
- ※注意 雨風が強まってから屋外の点検・補強・清掃などをすることは、転落・転倒などを招くことがあり、かえって危険です。台風が接近する前の早めの対応を心がけましょう。

大雨対策

- 排水溝・といを掃除する。
- ごみ箱など流されやすい物を片付ける。
- 浸水のおそれのある場合は、あらかじめ家財道具を高い場所に移しておく。